

おむすび たかしま

24号
2014年7月発行

特集

びわ湖源流の郷
旅ナビまっぷ

地域を元気にする
おやじの力をご紹介!

平成26年度 協働提案事業
「インターネット活用による地域活性化事業」
【平成25年度からの継続事業】

連絡先 TEL : 050-3635-9231 FAX : 050-3730-4827
びわ湖源流ドットコム <http://biwako-genryu.com/>

QRコード

上のQRコードを
スマホで読みとると
「旅ナビまっぷ」に
アクセス出来ます。

NPO法人eネットびわ湖高島

INDEX

- 特集 地域を元気にするおやじの力をご紹介！
- たかしまの元気！企業 ~マキノ高原観光株式会社~
地域とともに、次世代を育む高原へ
- たかしま市民活動フェスタ2014実行委員会
- たかしま・未来・円卓会議でめざすこと
- いろいろやってます！(in)たかしま
市内でがんばっているNPOや市民活動団体を紹介
- インフォメーション

日々の生活にインターネットがずいぶん使われるようになりました。この事業では、インターネットを使って高島市を元気にしようと、市の魅力的な自然や風景、歴史資産などを発信する「情報ポータルサイト」びわ湖源流ドットコムを開設し、同時にFacebook（フェイスブック※）でも高島市の魅力をアピールして来られました。今年度は、①自然や風景に加えて高島市の市民や団体との思いの発信、②市内外の人々が、インターネットで交流できる仕組みの準備、③インターネットを商売やまちづくりに活用するための利用技術セミナーの開催、を3つの柱として事業を展開されます。表紙の写真は、「スマホ片手にまち歩き」ができるスマートフォンサービスで、市民や市外の高島市ファン、そして市内事業者の方々とともに内容の充実を目指しておられます。インターネットのヴァーチャル（仮想的）な場を出発点にして、市内外の人々の交流を盛り上げ、高島市を元気にしたい！そんな思いで事業を展開しておられます。

※フェイスブックとは、インターネットを使って世界中の人と交流できる仕組みです。

INFORMATION

「風と土の交藝in琵琶湖高島2014」 市内サポートスタッフを募集します！

「風と土の交藝in琵琶湖高島」は今年で5回目を迎えるイベントです。高島市に住む手仕事作家さんのお宅や工房をめぐり、この地で生み出された作品やステキな暮らしに触れる事ができます。

高島市での心地よい暮らしを守り続けたいと願う、市内在住の工芸作家や農家のほか、様々なスキルを持った有志が集まって立ち上げたプロジェクトチームが運営しています。

高島市のために何かしたい！というあなたのスキルや能力を、このプロジェクトチームの一員となって、ぜひ、発揮してください！たくさんのつながりが生まれ、絆が深まることが間違いないです！

※昨年度までの様子は、[風と土の交藝](#)で検索してください。

お問い合わせ先
風と土の交藝in琵琶湖高島HP
<http://www.kazetotsuchi.musubime.tv/>

子育てサポートグループのための セミナー&交流会

高島市内で活動する、子育て中のママをサポートするグループやサークルで交流しませんか。それぞれのグループの思いや活動内容などを知り合い、日ごろの活動について情報交換していただければと思います。また、大津市で「ママのための保健室」として小さな子どもを育てるママの心の健康を支えてこられたNPO法人マイママ・セラピーの代表 押栗泰代さんのお話を聞きします。ご参加お待ちしております。

日 時	7月10日(木) 9:45～12:00
講 師	押栗 泰代 氏 (NPO法人マイママ・セラピー 代表 ナーシングクリエイト株式会社 代表取締役)
場 所	今津東コミュニティセンター ホール
参 加 費	500円 (資料、お茶菓子代)
対象者	市民による子育てサポートグループ、自助的な子育てサロン、テーマに関心のある市民 (10～20名)

※託児有り (要10日前申込み)
申込・問い合わせ先
たかしま市民協働交流センター

詳細は、たかしま市民協働交流センターブログに掲載しています。

～自然はともだち、自然はふしき、自然はおどろき～ 里山体験隊 夏のキャンプ

知内川で川あそび！マキノの野口で炭出し！自然と仲良しになるプログラムがいっぱい！バーベキューも流しそうめんでおなかもいっぱい！今年の夏は、里山体験隊のキャンプで決まり！

日 時	7月26日(土)～27日(日)
場 所	ペンションマキノ (高島市マキノ町石庭)
定 員	20名
参 加 費	大人 5,000円、子ども 3,000円
申込締切	7月5日(土)まで

申込・問い合わせ先
NPO法人絵本による街づくりの会事務局
TEL 080-3802-8157

平成26年度市民による、市民のためのまちづくり
たかしま・未来・円卓会議

第1回【地域の仕事づくり】をテーマに 今、取り組むべきテーマを考える

高島にある地域の課題や「何とかしたい！」地域の困り事などを、市民、市民活動団体、企業、行政学校、金融機関など、地域を支えるいろいろな人や組織がともに考え、力を出し合って連携し、協働によって解決策を見出していく場が地域円卓会議です。

今年度第1回目の円卓会議では、昨年の円卓会議と前回のキックオフ・ミーティングを踏まえ、話題に最も多く出てきた【森林】や【子育て】、【高齢者の活躍】などのキーワードを頼りに【今、取り組むべきテーマ】を参加者の皆さんといっしょに考えます。

日 時	7月5日(土) 13:30～17:00 受付13:00 閉場17:00
講 師	ファシリテーター 中川 芳江 氏 (Office SPES代表)
場 所	今津東コミュニティセンター ホール
定 員	30名 ※託児有り (要10日前申込み)
参 加 費	無料
対象者	高島市の未来、地域課題に関心をお持ちの市民、市民活動団体、事業者、行政の方など

申込・問い合わせ先
たかしま市民協働交流センター
詳細は、たかしま市民協働交流センターのホームページに掲載しています。

ひきこもり啓発講座

10年後の彼を見つめた就労支援
～地域に根ざした“ひきこもり支援”を考える～

あなたの近くに、不登校やひきこもりで悩んでいる人はいませんか？

ひきこもりは本人や家族の危機であるとともに社会問題でもあります。

地域でできること、一緒に考えてみませんか？

※この事業は、平成26年度高島市協働提案事業です。

日 時	7月12日(土) 13:30～15:45
講 師	野々村 光子 氏 (働き・暮らし応援センター“Tokito-”センター長)
場 所	安曇川公民館 ふじのきホール (高島市安曇川町田中89)
参 加 費	無料
申 込	申込不要 当日直接受付においでください。

申込・問い合わせ先
社会的ひきこもり家族の会「みにとまと」
TEL 090-1146-1618

◆ このページに関するご応募・お問合せ
たかしま市民協働交流センターまで、お気軽に
お問合せください。

発行/たかしま市民協働交流センター
〒520-1622 滋賀県高島市今津町中沼1-4-1
(今津東コミュニティセンター内)

TEL / 0740-20-5758 FAX / 0740-20-5757

MAIL / webmaster@tkkc.takashima-shiga.jp

◆ <http://tkkc.takashima-shiga.jp/> [facebook](http://facebook.com/tkkctakashima)

◆ [twitter](http://twitter.com/tkkctakashima)

業務時間／祝日を除く月～金曜日 9時～17時

地域を「元気」にするおやじの力を「」紹介！

今年度は、高島で地域課題や地域の魅力づくりに活躍する男性、女性、若者、子どもの活動を紹介していくます。年代、世代、性別に関係なく、誰もが 地域を元氣にする力を發揮して、協働のまちが実現していくます。あなたの力を地域に活かすヒントにしてください。

今回は、期待が高まっている「おやじ」の力で地域を元氣にしていく活動を紹介します。

～地域資源をオヤジの力で復活～

○国境炭焼きオヤジの会

お問い合わせ先：

会長 古本 勇義

TEL:〇七四〇一ハ一〇三六五

マキノ町国境で地域の活性化対策に、地元のオヤジたちが取り組んだのが炭焼き。昔の炭窯を掘り起こして再現し、平成22年に数十年ぶりに炭焼きを復活させました。炭焼きをとおして、地域の人々が元気に暮らしていくればどうぞ夢を託し、「夢炭」と名づけています。良質の炭は市外からも注文が入るほど。「夢炭石つけん」の開発、小学生の炭焼き体験の受け



入れなどもしてこます。

市外からも炭焼きを学びに来られ、地域の女性たちも道の駅「追坂峠」で「夢炭」で焼いた餅を売るなど、地域全体の元気につながっています。

～おやじの特技を活かして子どもたちに冒険を～

○学童保育きりきりクラブのおやじ会

(NPO法人子育ち・子育てサポートきりきり会(保護者会))

お問い合わせ先：

NPO法人子育ち・子育てサポートきりきり会(石田)

田じり会の機会の少ない父親同士が集まり、子どもや親子の事、仕事の事などを話す中で、父親の子育ての参考になればと昨年から始まりました。昨年は飲み会を3回開催。最初4~5人で始め、3回目には10人が参加して、「きりきりクラブでおやじの特技を活かして何かしたい」「子ど



には、ちょっと危険な体験や冒険をさせたいね」など話が膨らんでいます。

今年はおやじ会主催の親子でできる体験を考えています。

おやじ会の是永 宙さんは、「子どもは冒険や体験をおねじれて変わっていきます。小さなケガも大切な体験。そんな体験をさせてあげられるのが父親だと思います。忙しご日常だと思いますが、楽しく、酒飲みながら、おやじ談義しましょー！」と話してくれました。



～何かを始めたい！おやじの思いと力を高める場～

○おやじ塾（ゆめぱれっと高島）

お問い合わせ先：

ゆめぱれっと高島 高島市働く女性の家

TEL:〇七四〇一二二一五七七五

地域での活動の場づくり、仲間づくりを目指して、平成25年度から始まりました。

昨年度は、防災学習、料理教室、まち歩きなどの講座がありました。今年度も参加者の希望を取り入れながら、活動が始まっています。

第2土曜日、ゆめぱれっと高島（高島市働く女性の家）や市内各地で講座が行われております。地域で何かしたいけど何から始めればいいのか…と考えておられる中高年男性のみなさんぜひ参加ください！

～でやる♪♪で楽しみながら～

○高島市家庭教育支援チーム「バラソル」

お問い合わせ先：

高島市社会教育課

TEL:〇七四〇一三一四四五七

第4土曜日に開催されています。地域ぐるみで子育てをサポートする仕組みとして、高島市が呼びかけてスタートしました。村上稔治さんは、昨年の地域教育力向上講座「孫育て講座」を受講して「パラソル」を知りました。「小さな子どもたちが遊んでいる姿を見るのは楽しいものです。家に一人でいるより、絵本などの読み聞かせをして、でもひとりで自分も楽しんでいます。」と。女性ばかりのメンバーの中でもうと照れる時もあるのですが、読み聞かせは他のメンバーからも好評で「男性の声の方が子どもたちによく聞こえるようだ、みんな楽しんで聞いています。」とのこと。男性も地域ぐるみの子育てに参加してみませんか。ちょっとお時間がある時にお孫さんとお越しください。



みなさんのお近くで、地域を元気にする男性、おやじの活動がありましたら、たかしま市民協働交流センターまでお知らせください。

活動を取材させていただき、紹介していきたいと思います。

たくさんの活動を紹介する」とことで、地域で何か活動したいと思う男性が一步を踏み出す機会につながればと願っています。

～料理をじ necessitàで健康管理と仲間づくり～

○安曇川・男の料理クラブ

お問い合わせ先：

高島市健康推進課 食育担当

TEL:〇七四〇一五一八〇七八

料理を覚えることで家庭の手助けになれば、自分の健康管理にもなれば、と集まる男の料理育について相談ができる場が、第2水曜日と



クラブが安曇川公民館で第2金曜日午前の時半から午後1時に開かれています。レシピは自分達で作り、材料の買出しもできるだけ自分達で行つて食材の値段なども知るようになります。メニューは季節を感じられる旬の野菜を使つように工夫し、必要に応じて栄養士さんから、塩分やカロリーなど健康管理についてアドバイスを受けています。代表の藤田剛志さんは、「みんなと畠のことや孫のこと、趣味のことなど話ながら料理して、食べるのには本当に楽しいです。趣味の仲間づくりもできますよ。」とのこと。男同志、仲間と楽しく作つて、楽しく食べる料理クラブ。お近くの公民館などでもぜひ作つてみませんか。



たかしま市民活動フェスタ2014 実行委員会が動き出しました！

たかしま市民活動フェスタは、高島で活動する市民活動団体やボランティアグループが集まり、市民活動やボランティアを知る「きっかけ」と、市民や市民活動団体同士の「あい」、そしてたくさんの「つながり」が生まれる場を目指して開催します。

実行委員会では、フェスタ当日まで約10回程度の会議を重ねながら、フェスタへの想いを集め、様々な企画や当日の運営を行います。詳細については、たかしま市民協働交流センターまで、お気軽にお問合せください！

また、たかしま市民活動フェスタ実行委員会の様子は、当センターのブログやフェイスブックにも掲載していますので、ぜひ、ご覧ください！

たかしま市民活動フェスタ2014
2014年11月8日（土）
開催決定！
今津東コミュニティセンター



6月4日(水) 第1回実行委員会の様子

平成26年度 市民による、市民のためのまちづくり たかしま・未来・円卓会議でめざすこと

【高島市制10周年記念事業】



高島にある地域の課題や「何とかしたい！」地域の困り事などを、市民、市民活動団体、企業、行政、学校、金融機関など、地域を支えるいろいろな人や組織がともに考え、力を出し合って連携し、協働によって解決策を見出していく場が地域円卓会議です。

今年度は、これまでの円卓会議で出てきたキーワードを頼りに、みんなでテーマを見出し、そのテーマを掘り下げながら、人や

地域をイメージして、多様なつながりから具体的なアクションにつなげていきたいと思っています！

「高島市内で何かを始めたい！」という方や新たなつながりを求めておられる方は、ぜひ、この機会にご参加ください！

第1回は7月5日（土）に開催します！

(詳細につきましては、裏表紙をご参照ください。)

地域を支える協働のパートナー、高島の地域を盛り上げる企業をご紹介します。

たかしまの元気！企業

地域とともに、次世代を育む高原へ

－マキノ高原観光株式会社－ 取締役 前川 正彦さん



平成11年に牧野区の55戸が共同出資し、設立されたマキノ高原観光株式会社。オートキャンプ、トレッキング、ウォーキング、自然体験、グラウンドゴルフなど年間45万人が訪れるマキノ高原は、地域の自然を活かし、地域とともに発展する道を模索してこられました。平成14年から取締役支配人を務め、現在、取締役である前川正彦さんに自然と地域への思いをお聞きしました。

■ 学校教育との連携で、地域とともに発展する

◆ 地域とともに発展される経営として、どんな特徴を作つておられますか？

全国的にリゾート開発が進められた時代、マキノ高原では「身の丈に合った開発」「自然を崩す事のない質の高い開発」をコンセプトに事業を進めてきました。会社設立当初から、学校教育との連携をめざし、飯ごう炊さん、オリエンテーリングなどの野外体験や焼き杉やわら細工の屋内体験などプログラムを充実してきました。特に「クラスづくり」に重点を置き、1クラス1民宿の分宿によってクラスの「和」を育てる機会を提供しています。今年も関西や中京地域から50校約8000名が利用される予定です。受け入れるマキノ高原民宿村17軒は、民宿間で差が出ないように連携して取り組んでいます。マキノ高原と民宿が両輪となって発展することがこの地域の発展に欠かせません。また、マキノ町全体を野外活動ゾーン、湖岸ゾーン、研修ゾーンなど目的に合わせて特徴を作り、全域の発展をめざしています。

学校教育との連携や森づくりの取り組みをお聞きし、山や自然という地域の資源を次の世代へつなげることを強く意識して地域開発をしてこられたと感じました。

■ 水源の森から湖までを体験できる自然学校で次世代を育てたい

◆ ゲレンデに植樹して森づくりをされているそうですね。

スキー場の使わなくなったゲレンデを森に返す「20年後に森を作ろうプロジェクト」を平成18年から進めています。クヌギ、コナラ、エノキなど元の植生に配慮して植樹しました。特にエノキはオオムラサキというチョウの幼虫の食樹です。多様な生物が生息する森は、ぞんぶんに昆虫採集ができ、訪れた人が憩える場にしたいと思っています。さらに、この森を基点に青少年育成をめざした冒険ができる自然学校の開設を考えています。

水が生まれ、谷から少しづつ水があつまり、水田に使われ、魚の生態が変化し、湖までのルートをたどる「水の物語」を体験できるマキノならではの自然学校にしたいと思っています。里と山の関わり、人と自然の歴史を語れる「里山のプロ」が育つ学校を作りたいと思います。



〒520-1836 滋賀県高島市マキノ町牧野931

TEL:0740-27-0936 FAX:0740-27-0300

ホームページ: <http://www.makinokougen.co.jp>

いろいろやっています！inたかしま

いりでは、市内のNPO、特徴的な活動のまちづくり団体や自治会が、どのように生きつかけで地域の課題に気付き活動を始めたのか、また活動の輪を広げていったのか、など、活動を展開する上での喜びや課題、これからのビジョンなどを取材して紹介します

「時間預託」という助け合いのしくみ



ナルクびわこ高島

NPO法人ナルク（ニッポン・アクティブライフ・クラブの略）は【自立・奉仕・助け合い・生きがい】を理念に掲げ、平成6年に設立された全国組織（全国126拠点・会員数約3000人）のボランティア団体です。平成22年4月には代表の前川ちよ子さんの声かけで、高島市の拠点として「ナルクびわこ高島」の活動がはじまりました。

「ナルクびわこ高島」は現在、会員数41名（29世帯）で、奉仕活動として子どもたちへの竹トンボ体験や老人福祉施設への訪問のほか、ナルク最大の特徴である「時間預託※活動」という会員相互の助け合いや広報誌の発行、会員同士の交流会、会員以外の人も参加できる年2回のバス旅行など、地道な活動を続けています。

* 時間預託…ボランティア提供した時間を点数として預託（貯蓄）しておき、自分が必要になったとき、点数を使ってボランティアを受けることが出来る制度。

「喜びも教えも3倍返つてくれる」「ボランティア活動

今回お話を伺った代表の前川さんと役員の中江さん、中井さんがナルクの活動に参加したきっかけは「TVで紹介されたナルクに新しい生きがいを見つけることができそうに思つたから」だとか。ここでは会員それが持つ様々な能力やキャリアを活かして会員同士が学び、教え合い、その活動を通じて、利用者さんやそのご家族の方に喜んでいただけることが会員の喜びにつながるそうです。また全国の会員同士なら初対面でも親しみを持つて話が出来るのも喜びのひとつです。

「生涯現役」を合言葉に84歳でパソコンを覚えた前川さんは、今後はもつと地元に根付いた拠点となり、担い手を増やしていきたいとのこと。「人望のある若い人も入ってきてくれている。今後も、会員がこの会を磨いて、皆様に喜んでいただける活動を続けていくてほしい」と話す前川さんたちから、「元気をもらえる取材となりました。

女性の立ち直りが大切「いこは生きる力を育む場所



特定非営利活動法人 リバティー・ウイメンズハウス・おりーぶ

いここの病や対人関係、感情表現の困難さを覚えている方、摂食障害、DV被害などに悩む成人女性に対して、医師や精神保健福祉士、弁護士などの専門家が協力し、回復と自立の支援を行っている特定非営利活動法人 リバティー・ウイメンズハウス・おりーぶ（以下、「おりーぶ」とする）代表の山本良子さんにお話を聞きしました。山本さんは精神保健福祉士の資格をとり、セラピストとして支援活動を行いますが、相談業務だけでは問題が克服できないと感じ、平成24年6月にマキノ町に滞在型の施設を開設。その後も人のつながりや協力を支えられながら、現在は3施設を運営し、様々な悩みを抱えた女性たちと共に生活をしています。共同生活は、相談業務と比較できないほど大変なこともありますが、「心身ともに傷ついた女性が命の大切さに気付き、自ら意思決定をする

る本当の自由を手に入れて欲しい」という強い想いで、多くの困難を乗り越えていらっしゃいました。

利用者に寄り添ってくれるスタッフを募集

利用者は市外からが多く、市内の相談者を他県に紹介するなど、地元を離れることで心も新たになり、回復の効果が高くなるそうです。また広域のネットワークを持つことで、「おりーぶ」を次の世代に残す仕組みを、他団体から学ぶことにもつながっています。

利用者自らが摂食障害などで苦しんでいる人のための自助グループを立ち上げるなど、自分と同じ方向を向いてくれる若い人が育つてくれていることがうれしい、ところが山本さんは「利用者も増え、新たに社会福祉士など、利用者に心を寄せてくれるスタッフを探している。利用者には有能な人が多く、出口としての就労先をつくりたい」と今後の展望も語ってくださいました。

子育て世代の地域活動参加をサポート



子育て支援グループ「サンサン」

子育て支援グループ「サンサン」（以下、「サンサン」）は、高島市からの依頼で保育園や幼稚園の元臨時職員が集まって、平成22年にグループを立ち上げました。「サンサン」といえば、親子が元気いつぱいに輝くことを願って、太陽（SUN）からとられたそうです。メンバーは30代から70代までの28名。主な活動としては、保育園や幼稚園での補助活動のほか、子育て中のお父さんやお母さんが地域活動に参加できるように講演会やイベント等での託児サービスを積極的に行ってています。

市内にはマキノ、今津、安曇川・朽木、高島、新旭と5つの支部があり、支部リーダー会議が毎月行われています。それぞれ活動を楽しんでいるメンバーたちのお陰で、運営に関しても非常にスムーズだそうです。チームワークも良く、常にスマートだそうです。チームワークも良く、支部リーダーの力が大きい」と、その労をねぎらつておられました。

子どもの「元気」が、大人の「元気

課題としては、託児利用に関する事前申込みをお願いしていく中、連絡もなく突然来られるなど、託児の事前把握が難しく、メンバーアクティビティとして若返りを考える必要があり、40代から50代のメンバーがもっと増えて欲しいとのことで、参加希望の方は、NPO法人元気な仲間さんが主催しておられる子育てサポートーングループを受講してみてください！

「子どもの元気」が、大人の「元気」に集まつてくる瞬間は、何度も触れ合うことがこの活動を支えるやりがいであります。同時に、それが若さを保つ秘訣のように感じました。今後は、グループとして若返りを考える必要があり、40代から50代のメンバーがもっと増えて欲しいとのことで、参加希望の方は、NPO法人元気な仲間さんが主催しておられる子育てサポートーングループ長／若林桂子

「時間預託」という助け合いのしくみ



ナルクびわこ高島

NPO法人ナルク（ニッポン・アクティブライフ・クラブの略）は【自立・奉仕・助け合い・生きがい】を理念に掲げ、平成6年に設立された全国組織（全国126拠点・会員数約3000人）のボランティア団体です。平成22年4月には代表の前川ちよ子さんの声かけで、高島市の拠点として「ナルクびわこ高島」の活動がはじまりました。

「ナルクびわこ高島」は現在、会員数41名（29世帯）で、奉仕活動として子どもたちへの竹トンボ体験や老人福祉施設への訪問のほか、ナルク最大の特徴である「時間預託※活動」という会員相互の助け合いや広報誌の発行、会員同士の交流会、会員以外の人も参加できる年2回のバス旅行など、地道な活動を続けています。

* 時間預託…ボランティア提供した時間を点数として預託（貯蓄）しておき、自分が必要になったとき、点数を使ってボランティアを受けることが出来る制度。

「喜びも教えも3倍返つてくれる」「ボランティア活動

今回お話を伺った代表の前川さんと役員の中江さん、中井さんがナルクの活動に参加したきっかけは「TVで紹介されたナルクに新しい生きがいを見つけることができそうに思つたから」だとか。ここでは会員それが持つ様々な能力やキャリアを活かして会員同士が学び、教え合い、その活動を通じて、利用者さんやそのご家族の方に喜んでいただけることが会員の喜びにつながるそうです。また全国の会員同士なら初対面でも親しみを持つて話が出来るのも喜びのひとつです。

「生涯現役」を合言葉に84歳でパソコンを覚えた前川さんは、今後はもつと地元に根付いた拠点となり、担い手を増やしていきたいとのこと。「人望のある若い人も入ってきてくれている。今後も、会員がこの会を磨いて、皆様に喜んでいただける活動を続けていくてほしい」と話す前川さんたちから、「元気をもらえる取材となりました。

女性の立ち直りが大切「いこは生きる力を育む場所



特定非営利活動法人 リバティー・ウイメンズハウス・おりーぶ

いここの病や対人関係、感情表現の困難さを覚えている方、摂食障害、DV被害などに悩む成人女性に対して、医師や精神保健福祉士、弁護士などの専門家が協力し、回復と自立の支援を行っている特定非営利活動法人 リバティー・ウイメンズハウス・おりーぶ（以下、「おりーぶ」とする）代表の山本良子さんにお話を聞きました。山本さんは精神保健福祉士の資格をとり、セラピストとして支援活動を行いますが、相談業務だけでは問題が克服できないと感じ、平成24年6月にマキノ町に滞在型の施設を開設。その後も人のつながりや協力を支えられながら、現在は3施設を運営し、様々な悩みを抱えた女性たちと共に生活をしています。共同生活は、相談業務と比較できないほど大変なこともありますが、「心身ともに傷ついた女性が命の大切さに気付き、自ら意思決定をする

る本当の自由を手に入れて欲しい」という強い想いで、多くの困難を乗り越えていらっしゃいました。

利用者に寄り添ってくれるスタッフを募集

利用者は市外からが多く、市内の相談者を他県に紹介するなど、地元を離れることで心も新たになり、回復の効果が高くなるそうです。また広域のネットワークを持つことで、「おりーぶ」を次の世代に残す仕組みを、他団体から学ぶことにもつながっています。

利用者自らが摂食障害などで苦しんでいる人のための自助グループを立ち上げるなど、自分と同じ方向を向いてくれる若い人が育つてくれていることがうれしい、ところが山本さんは「利用者も増え、新たに社会福祉士など、利用者に心を寄せてくれるスタッフを探している。利用者には有能な人が多く、出口としての就労先をつくりたい」と今後の展望も語ってくださいました。

「時間預託」という助け合いのしくみ



ナルクびわこ高島

NPO法人ナルク（ニッポン・アクティブライフ・クラブの略）は【自立・奉仕・助け合い・生きがい】を理念に掲げ、平成6年に設立された全国組織（全国126拠点・会員数約3000人）のボランティア団体です。平成22年4月には代表の前川ちよ子さんの声かけで、高島市の拠点として「ナルクびわこ高島」の活動がはじまりました。

「ナルクびわこ高島」は現在、会員数41名（29世帯）で、奉仕活動として子どもたちへの竹トンボ体験や老人福祉施設への訪問のほか、ナルク最大の特徴である「時間預託※活動」という会員相互の助け合いや広報誌の発行、会員同士の交流会、会員以外の人も参加できる年2回のバス旅行など、地道な活動を続けています。

* 時間預託…ボランティア提供した時間を点数として預託（貯蓄）しておき、自分が必要になったとき、点数を使ってボランティアを受けることが出来る制度。

「喜びも教えも3倍返つてくれる」「ボランティア活動

今回お話を伺った代表の前川さんと役員の中江さん、中井さんがナルクの活動に参加したきっかけは「TVで紹介されたナルクに新しい生きがいを見つけることができそうに思つたから」だとか。ここでは会員それが持つ様々な能力やキャリアを活かして会員同士が学び、教え合い、その活動を通じて、利用者さんやそのご家族の方に喜んでいただけることが会員の喜びにつながるそうです。また全国の会員同士なら初対面でも親しみを持つて話が出来るのも喜びのひとつです。

「生涯現役」を合言葉に84歳でパソコンを覚えた前川さんは、今後はもつと地元に根付いた拠点となり、担い手を増やしていきたいとのこと。「人望のある若い人も入ってきてくれている。今後も、会員がこの会を磨いて、皆様に喜んでいただける活動を続けていくてほしい」と話す前川さんたちから、「元気をもらえる取材となりました。

女性の立ち直りが大切「いこは生きる力を育む場所



特定非営利活動法人 リバティー・ウイメンズハウス・おりーぶ

いここの病や対人関係、感情表現の困難さを覚えている方、摂食障害、DV被害などに悩む成人女性に対して、医師や精神保健福祉士、弁護士などの専門家が協力し、回復と自立の支援を行っている特定非営利活動法人 リバティー・ウイメンズハウス・おりーぶ（以下、「おりーぶ」とする）代表の山本良子さんにお話を聞きました。山本さんは精神保健福祉士の資格をとり、セラピストとして支援活動を行いますが、相談業務だけでは問題が克服できないと感じ、平成24年6月にマキノ町に滞在型の施設を開設。その後も人のつながりや協力を支えられながら、現在は3施設を運営し、様々な悩みを抱えた女性たちと共に生活をしています。共同生活は、相談業務と比較できないほど大変なこともありますが、「心身ともに傷ついた女性が命の大切さに気付き、自ら意思決定をする

る本当の自由を手に入れて欲しい」という強い想いで、多くの困難を乗り越えていらっしゃいました。

利用者に寄り添ってくれるスタッフを募集

利用者は市外からが多く、市内の相談者を他県に紹介するなど、地元を離れることで心も新たになり、回復の効果が高くなるそうです。また広域のネットワークを持つことで、「おりーぶ」を次の世代に残す仕組みを、他団体から学ぶことにもつながっています。

利用者自らが摂食障害などで苦しんでいる人のための自助グループを立ち上げるなど、自分と同じ方向を向いてくれる若い人が育つてくれていることがうれしい、ところが山本さんは「利用者も増え、新たに社会福祉士など、利用者に心を寄せてくれるスタッフを探している。利用者には有能な人が多く、出口としての就労先をつくりたい」と今後の展望も語ってくださいました。

「時間預託」という助け合いのしくみ



ナルクびわこ高島

NPO法人ナルク（ニッポン・アクティブライフ・クラブの略）は【自立・奉仕・助け合い・生きがい】を理念に掲げ、平成6年に設立された全国組織（全国126拠点・会員数約3000人）のボランティア団体です。平成22年4月には代表の前川ちよ子さんの声かけで、高島市の拠点として「ナルクびわこ高島」の活動がはじまりました。

「ナルクびわこ高島」は現在、会員数41名（29世帯）で、奉仕活動として子どもたちへの竹トンボ体験や老人福祉施設への訪問のほか、ナルク最大の特徴である「時間預託※活動」という会員相互の助け合いや広報誌の発行、会員同士の交流会、会員以外の人も参加できる年2回のバス旅行など、地道な活動を続けています。

* 時間預託…ボランティア提供した時間を点数として預託（貯蓄）しておき、自分が必要になったとき、点数を使ってボランティアを受けることが出来る制度。

「喜びも教えも3倍返つてくれる」「ボランティア活動

今回お話を伺った代表の前川さんと役員の中江さん、中井さんがナルクの活動に参加したきっかけは「TVで紹介されたナルクに新しい生きがいを見つけることができそうに思つたから」だとか。ここでは会員それが持つ様々な能力やキャリアを活かして会員同士が学び、教え合い、その活動を通じて、利用者さんやそのご家族の方に喜んでいただけることが会員の喜びにつながるそうです。また全国の会員同士なら初対面でも親しみを持つて話が出来るのも喜びのひとつです。

「生涯現役」を合言葉に84歳でパソコンを覚えた前川さんは、今後はもつと地元に根付いた拠点となり、担い手を増やしていきたいとのこと。「人望のある若い人も入ってきてくれている。今後も、会員がこの会を磨いて、皆様に喜んでいただける活動を続けていくてほしい」と話す前川さんたちから、「元気をもらえる取材となりました。

女性の立ち直りが大切「いこは生きる力を育む場所



ナルクびわこ高島

NPO法人ナルク（ニッポン・アクティブライフ・クラブの略）は【自立・奉仕・助け合い・生きがい】を理念に掲げ、平成6年に設立された全国組織（全国126拠点・会員数約3000人）のボランティア団体です。平成22年4月には代表の前川ちよ子さんの声かけで、高島市の拠点として「ナルクびわこ高島」の活動がはじまりました。

「ナルクびわこ高島」は現在、会員数41名（29世帯）で、奉仕活動として子どもたちへの竹トンボ体験や老人福祉施設への訪問のほか、ナルク最大の特徴である「時間預託※活動」という会員相互の助け合いや広報誌の発行、会員同士の交流会、会員以外の人も参加できる年2回のバス旅行など、地道な活動を続けています。

* 時間預託…ボランティア提供した時間を点数として預託（貯蓄）しておき、自分が必要になったとき、点数を使ってボランティアを受けることが出来る制度。

「喜びも教えも3倍返つてくれる」「ボランティア活動

今回お話を伺った代表の前川さんと役員の中江さん、中井さんがナルクの活動に参加したきっかけは「TVで紹介されたナルクに新しい生きがいを見つけることができそうに思つたから」だとか。ここでは会員それが持つ様々な能力やキャリアを活かして会員同士が学び、教え合い、その活動を通じて、利用者さんやそのご家族の方に喜んでいただけることが会員の喜びにつながるそうです。また全国の会員同士なら初対面でも親しみを持つて話が出来るのも喜びのひとつです。

「生涯現役」を合言葉に84歳でパソコンを覚えた前川さんは、今後はもつと地元に根付いた拠点となり、担い手を増やしていきたいとのこと。「人望のある若い人も入ってきてくれている。今後も、会員がこの会を磨いて、皆様に喜んでいただける活動を続けていくてほしい」と話す前川さんたちから、「元気をもらえる取材となりました。

女性の立ち直りが大切「いこは生きる力を育む場所



ナルクびわこ高島

NPO法人ナルク（ニッポン・アクティブライフ・クラブ